

就任2年を振り返って



2年間で振り返った感想は？

とにかく全力で駆け抜けてきました。2年という時間も、あっという間に過ぎた、いや、いろいろありすぎて、とても長かったようにも感じます。でも、次にやらなければならないこと、やり遂げたいことばかりを考えていますから、まだまだ走り足りていないようです。

特に印象に残っていることは？

いろいろあります。福島国際研究教育機構（F-REI）ができて、水素連携の話し合いのためアメリカにも行きました。特定復興再生拠点区域の避難指示解除や特定帰還居住区域の説明会など、帰還困難区域の住民の方々と膝を突き合わせてお話しもしました。

嬉しいこととして子どもの数が増えていることがあります。現在、浪江にじいりこども園、なみえ創成小学校、中学校合わせて100人以上の子ども達があり、今後も増える見込みです。さらなる教育環境の充実のため、教室等を増築することを検討しています。子どもは町の宝です。町長として、子ども達の笑顔を守っていく、その責任の重さも実感しています。

今年3月「浪江国際研究学園都市構想」を発表しました。構想を具現化していくことで、浪江の子ども達と海外から来た子ども達が机を並べ、この地域が経験してきた歴史を教材として、一緒に学べる環境を作っていきたいと思っています。この地域で育った子ども達が森のようにつながり、豊かな個性が茂っていくことを願っています。



来庁したこども園の園児たち

当面の課題は？

多くの課題がありますが、医療、福祉の充実は大きな課題です。昨年から浪江診療所で小児科の診療がはじまり、調剤薬局も開業しました。小児科については、オンライン診療を併用することで、診療体制の充実に一歩ずつ近づいてきていますが、専門医などの充実は広域的な協力も必要だと思っています。当面の双葉郡の医療体制は、県立大野病院を中心として考えていくことになると思います。

もう少し町民の皆さんにはご不便をおかけすることになりますが、これからも町内の生活環境が充実していくよう、関係各所とともに知恵を絞り、汗をかいていきます。

今後、力を入れて取り組みたいことは？

「農業」の復興に力を入れていきます。カントリエレベーターに続いて、育苗施設も完成し各地区では場整備も進み始めました。少しずつ農業に取り組む環境が整ってきていると感じています。除染によって、我々の先祖が育んできた「土」が、はぎ取られてしまいました。私も農家ですから、本当に悔しかった。でも、嘆いているばかりでは前には進めませんから、考え方を180度変えることにしました。



整備が進む復興牧場の工事現場



室原地区で震災後初めて行われた田植え

農業が使われ始めてから、これほど大規模に表土を入れ替えた農地は他にあるでしょうか。無農薬栽培や有機栽培が注目される現在、表土を入れ替えたという事実を強みに変えて、農業を復興させていきたいと考えています。町では、乳牛約2,000頭が飼育される「(仮称)復興牧場」の整備が進んでいますから、牛糞などをたい肥として利用し、飼料作物などを作る循環型農業で「耕畜連携」を実現させます。

また先日、小野田地区にてサケふ化施設建設工事の安全祈願祭が執り行われました。実際にさけ稚魚を放流し、そ上するまでには時間がかかりますが、「漁業」に関しても、また一歩前進することができたと思います。

いま町では、多くの歴史的事業が進んでいます。また昨年、町内に国が主導する世界的研究機関である「福島国際研究教育機構（F-REI）」が設立されました。そしてこれから水素の実用化に向けた取り組みや駅前の再開発事業など、世界中から多くの人々が浪江町を訪れるようになります。交流人口が増加し、一層、町内に賑わいが戻れば、個人商店などの事業者の中にも戻ってきていただける方が増えてくるのではないかと期待しているところです。

町民の皆さんへメッセージをお願いします。

今も、「避難先で淋しい思いをされている方々がいるのではないかと」考えてしまいます。また変化していく町の様子に、寂しい思いをされている方もおられるかもしれません。そうした町民の皆さん一人一人の気持ちに寄り添いながら、これからも町長としての責務を果たしていきたいと思っています。

遠くに避難されていたり、ご高齢でなかなか浪江に来ることができない方々にも、いまの町の様子を知っていただくために、広報やホームページなど、町の状況を発信することにも力を入れてまいります。

必ずふるさとを再興してみせますから、これから楽しみにしててください。町民全員に素晴らしい浪江の姿を見て欲しいです。それまで皆さん、お身体を大切に、お元気でお過ごしください。

問 総務課秘書係 TEL 0240(34)0239